

ノルウエーの民俗音楽と  
エドヴァルド・グリーグの世界  
音楽文化の伝承と  
音楽家の役割を考える

ハーディングフェーレはノルウェーに伝わる民俗楽器。17世紀に西ノルウェーのハルダンゲル地方で生まれ、ノルウェー南部の各地に伝わった。ハーディングとは「ハルダンゲル地方の」、フェーレとは「弦楽器」の意味で、4本のメロディー弦と4〜5本の共鳴弦から繊細で豊かな響きを奏でる。そのレパートリーの多くは古くから農村地域に伝わる舞曲や結婚行進曲である。

毎回、変わりゆく社会の中での音楽、文化、そして音楽大学のあり方を模索し、対話を重ねる特別講座「音楽と知の最前線」。今回のセミナーではノルウェーの民俗楽器ハーディングフェーレ奏者、榎原聡子さんをお迎えして、ノルウェーの民俗音楽とエドヴァルド・グリーグの音楽との関係を軸に、音楽文化の伝承と音楽家の役割について考えます。ノルウェーでも評価の高い榎原さんの演奏を交えながらのセミナーはコンサートとしても聴きごたえ十分です。どうぞ、ご期待ください。

2024年2月13日(火)

17:30~20:00 終了予定

東京音楽大学

中目黒・代官山キャンパス C401 教室

[出演]

講師 榎原聡子(ハーディングフェーレ奏者)

ナビゲーター 広上淳一(指揮専攻教授)

モデレーター 井上勢津(指揮専攻講師[兼務])

[お申し込み] 参加無料

- ① 学内関係者(学生、研修生、教職員)  
対面での聴講: 予約不要  
オンラインでの聴講: [Peatix](#) にて要予約
- ② 一般の方(対面/オンラインともに要予約)  
対面での聴講: [Google フォーム](#)  
オンラインでの聴講: [Peatix](#)



Peatix



Google

[プログラム]

第1部 ハーディングフェーレ演奏(解説付)

第2部 ノルウェーの民俗音楽と

エドヴァルド・グリーグの世界

第3部 対話「音楽文化の伝承と音楽家の役割」

プロフィール/榎原聡子 Satoko Katagihara

ハーディングフェーレ奏者。2001年よりノルウェーに通い、奏法・音楽スタイル・理論を学ぶ。ノルウェーでも数少ない民俗音楽教育機関であるオーレ・ブル・アカデミー、ノルウェー南東大学の伝統音楽コースで学ぶ。2007年グリーグ没後100年記念コンサート、2008年ガイル・トヴァイト生誕100年記念コンサートではノルウェーから来日した音楽家と共演。ノルウェー留学中の2014年から2016年には3シーズン、西ノルウェー、ヴォスの歴史的な建物フィンネスロフテンにてサマーコンサートを行う。2018年夏ベルゲンのエドヴァルド・グリーグ博物館 トロールハウゲンにてガイドとして勤務。2回のレクチャーコンサートを行う。2018年秋帰国。現在はハーディングフェーレソロ演奏を軸に、他の楽器とのアンサンブルで演奏活動を行っている。日本・ノルウェー音楽家協会、ノルウェー民俗音楽学会各会員。2023年ソロアルバム「ハーディングフェーレの風景(Landskap av hardingfele)」をリリース。

[主催] 東京音楽大学指揮部会

conducting@tokyo-ondai.ac.jp

[協力] 東京音楽大学附属民族音楽研究所

[後援] ノルウェー大使館